

令和6年(2024年)12月
市立札幌病院の在り方検討会議

市立札幌病院の機能強化に向けた意見書
概要版(案)

このたび、市立札幌病院の在り方検討会議は、市立札幌病院の担うべき役割・機能強化の方向性、病院再整備手法について、以下のとおり意見をとりまとめた。

札幌市は本意見書の内容を尊重し、今後の市立札幌病院の機能強化について基本的な考え方を示すとともに、計画的に施策を推進されることを期待する。そして、市民の健康と命を守る医療の持続的な提供と、効率的な経営の両立を目指していただきたい。

1 市立札幌病院の担うべき役割・機能強化の方向性

役割	機能強化の方向性(例示)
災害医療への対応	<p>①災害時等に活用できる諸室(講堂等)の増室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時は多くの患者・市民を収容できる諸室のほか、院内対策本部等、複数の大規模諸室が必要となるため、それらの配置を検討。 ・当該諸室の整備にあたっては外部からのアクセスのしやすさを考慮。 <p>(例) 講堂の別棟化や1階への配置等</p> <p>②免震構造の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時診療機能の維持のためには、医療機器の保護が重要であることから、施設の免震化を検討。
新興感染症への対応	<p>①個室率向上(全室個室化等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染管理に適している個室の増室を検討。 ・個室の整備にあたっては、個室内の水回り設備の併設や陰圧設備の確保もあわせて検討。 <p>②感染患者専用動線・水回り設備の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染患者専用の出入口やエレベーター等の整備を検討。 ・病棟内等の水回り設備(トイレや手洗い場)等の共用部分について、非接触型の設備の導入を検討。

役割	機能強化の方向性(例示)
救急医療への対応	<p>①救急初療室の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急患者を同時複数の受け入れるため、初療室のスペース拡大及び個室化を検討。 <p>②救急患者専用動線・設備の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急搬送患者に対し、速やかに手術等の対応をとるために、救命救急センターから手術室へ移動する効率的な動線の整備を検討。 <p>(例)救命救急センター専用エレベーターの設置 手術室を1階へ配置することの検討 等</p>
高度急性期医療の充実	<p>①周産期・小児医療に関する環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 陣痛から分娩、回復までを同じ室内で過ごすことができるLDR(Labor(陣痛)・Delivery(分娩)・Recovery(回復)の頭文字をとった略語。陣痛室・分娩室・回復室が一体となった部屋。)の整備のほか、低出生体重児等の治療にあたり必要となる新生児集中治療室(NICU)の機能強化、小児病床の個室化等を検討。 <p>②手術室・医療機器・医療提供に関する動線等の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進行に伴い、増加することが見込まれる脳や循環器の疾患(脳卒中・心筋梗塞等)に対応するための医療機器の導入や手術室の拡張等の環境整備のほか、各部門(診療科・放射線部・検査部・リハビリ等)が連携しやすい動線の再整備等を検討。

2 整備手法の検討の方向性

現時点で考えられる整備手法のパターンは現地建替え、大規模改修であり、この2つの整備手法について、機能強化の達成度、再整備までのスケジュール、病院経営への影響度合いの観点から比較検討を行い、以下の方向性をとりまとめた。

- 再整備費用は高額であるものの、機能強化(災害、感染症対応、救急医療及び高度急性期医療)の達成度、工事期間の短さ、再整備中の病院経営への影響が少ないという点で優位である「現地建替え」を目指すべき方向性として、検討を進めていくことが望ましい。
- しかしながら、非常に厳しい経営状況を踏まえて、今後、経営の健全化とともに、再整備に向けては、さらなる諸条件の検討や整備手法の精査を行うことが望ましい。

3 病院再整備後の病床数の検討

再整備後の病床数は、病床稼働の効率化を踏まえ、減少する方向を視野に検討を進めることが望ましい。